みんなのとしょかん

市民図書館
TEL（921）4646
FAX（921）4896
http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/

あたらしくはいった本（平成30年12月貸出開始資料から）

●小説　救済（長岡弘樹／著）　はんぷくするもの（日上秀之／著）
熱帯（森見登美彦／著）　いつか深い穴に落ちるまで（山野辺太郎／著）
ショートショート美術館（太田忠司・田丸雅智／著）　中国奇想小説集（井波律子／編訳）
リトルガールズ（錦見映理子／著）　燃えよ、あんず（藤谷治／著）

●随筆・詩などの文学　針と糸（小川糸／著）　大人の流儀⑧（伊集院静／著）　ガルシア＝マルケス「東欧」を行く（G・ガルシア＝マルケス／著）　傍らにいた人（堀江敏幸／著）　おばちゃん介護道（山口恵以子／著）

●その他の本　ここからセクハラ！（牟田和恵／著）　博多に強くなろう北九州に強くなろう（上・下）（西日本シティ銀行／編）　ヒンメリをつくる（山本睦子／編）　稼げる！農家の手書きPOP＆ラベルづくり（石川伊津／著）　文字組デザイン講座（工藤強勝／著）答えのない世界に立ち向かう哲学講座（岡本裕一朗／著）　未来の図書館、はじめます（岡本真／著）

『熱帯』
森見登美彦／著
文藝春秋

『いつか深い穴に落ちるまで』
山野辺太郎／著
河出書房新社

『ここからセクハラ！アウトがわからない男、もう我慢しない女』
牟田和恵／著　集英社

としょかんカレンダー

平成31年2	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	④	5	6	7	8	9
	10	11	⑫	13	14	15	16
	17	⑱	19	20	21	22	23
	24	㉕	26	㉗	28		

◯のついた日は休館日

金・土曜日（祝日を除く）は午後7時まで開館しています。

太宰府の文華 ～公文書館だより㊽～

金のウソと替えましょ ――鉄道開通と神事の盛況

明治22（1889）年12月11日、博多～久留米（当初は筑後川北岸に千歳川仮停車場）間で九州鉄道が開通します。二日市に置かれた停車場は（現JR九州二日市駅）、同35年に太宰府馬車鉄道ができるまでは、太宰府天満宮に最寄りの駅でした。列車のスピードは時速25キロ程度、ドイツ製の機関車はそう大きくはないものだったそうですが（『九州鉄道大観』）、貨車や客車を連ねて走る姿は当時の人々を驚かせます。

開業翌年の2月、九州鉄道は新聞に広告を出します。太宰府天満宮の神事、鷺替え・鬼すべに合わせ、2月25日と26日は臨時列車を運行するというものです。現在この神事は西暦1月7日に行われますが、当時は旧暦で開催されていたため（明治43年から西暦で開催）、この両日に臨時列車が設定され、そのための新たな車両も用意されました。

ご存知、鷺替え神事では「替えましょ、替えましょ」のかけ声で参加者が各々の木鷺を交換し合うもので、取り替えた鷺に当たりが出れば「金の鷺」が渡されます。いつから金鷺の授与が始まったか、新聞に金鷺の記事が見えるのは明治23年の鷺替えからで、もともと人気の行事に、この年は前年末の鉄道の開通も手伝い大混雑、福岡市内も神事目当ての宿泊客で大いに繁盛した様子です（『福陵新報』）。この時金鷺を引き当てたのは穂波村（現飯塚市）の一男子。福岡日日新聞の取材を受けたためか、当選者は2月27日付紙上に「わたくしは純金の鷺を当てました。」という6行分の広告を出しています。余計な事ですが、1行1日分3銭という同社の取り決めで計算すると、この広告料は18銭。当時1紙の値段は1銭5厘でしたので、引き当てた幸運には、新聞代12日分相当の出費が伴いました。

金鷺は明治27年の鷺替えから、太宰府天満宮が用意した2個と九州鉄道が寄進する10個と、全部で12個が定数となります。この年は金鷺の増量に合わせてか参詣者も増加し、鷺替え当日の二日市駅利用者数は1万2千人を超えました（『福岡日日新聞』）。以後、金鷺当選者全員の住所氏名は新聞で報道されるようになります。

明治40年、国が九州鉄道を買収したことで、会社側が出していた金鷺10個の寄進が途絶えてしまいます（『福岡日日新聞』）。その後は太宰府天満宮で全部をそろえ、毎年12個の金鷺が参詣者に贈られました。この頃の鷺替えは「筥崎宮の玉せせりに劣らない」激しさで、時には乱闘騒ぎもあったようですが、幸運の金鷺の行方は群衆に紛れた神職さんに守られ、純粋な気持ちで神事に参加する人に、そっと当たりが手渡されていたようです。

公文書館　藤田　理子